ビブリオエッセー

産経新聞　令和２年（2020年）９月19日（土）

【いいからいいから】　長谷川義史（絵本館）

2020.9.19

奈良県生駒市　清原貫　（18）

おじいちゃんはカッコいい

嫌なことや腹の立つことがわが身にふりかかってきたとき、私ならどうするか。怒りをぶつけたり、悲しんだり、落ち込んだり、そんなところだろう。今も新型コロナウイルスのせいで大学はオンライン講義になって、キャンパスにも行けず、残念で悲しい。おそらく多くの人がコロナストレスやいらだちを抱えているのではないか。でも、こんなネガティブ思考ではダメだと教えてくれたのがこの絵本だった。

このシリーズ絵本に出てくるおじいちゃんは何があっても笑顔で「いいから、いいから」と許す人である。最初にやってきたのは雷の親子だ。おへそを奪いに来たのだが、おじいちゃんは親子にごはんを出してお風呂をすすめるという歓待ぶり。雷の親子もこんなはずじゃなかったとひたすら恐縮して逃げていった。

幼いころこの絵本を読んだとき、こんな風になんでも許せてしまう人なんているわけがないと思っていた。しかし著者である長谷川さんのトークイベントに参加して、驚いた。

長谷川さん自身がおじいちゃんのようにすべてを許してしまいそうに穏やかな方だったからだ。その姿はとても大きくカッコよく見えて、憧れた。それ以降、トラブルが起きたときはまず、「いいから、いいから」と心の中でつぶやいてから取り組むようにしている。

「おこってはいけない／だれかがおこるとだれかにでんせんしてだれかがまたおこる」。絵本の帯にはこう書いてあった。「いいからいいから」は「せかいをへいわにするほんきのあいことば」なのだと。

ひと呼吸おくとリセットしてポジティブに物事を見やすくなった。自分も相手も笑顔ひとつで気分よく。このおじいちゃんのような大きくてカッコいい存在に近づけると信じている。

※無断転載不可